

第1章

財務・会計とは

会計は、単に利益を計算するためのものではない。飛行機のコックピットの計器盤に例えられるように、会社がどの位置にいて、どこに向かって進んでいるのかを把握する道具であり、経営者はその道具を使うことで、会社を正しい方向に導くことができる。このため、経営者についてアドバイスをする立場にある中小企業診断士においては、会計を理解し、どのようにして数字が作られるのか、そこで算定される数字はどんな意味を持つのかといった知識が不可欠となる。本章では、その前提知識として、会計の種類と決算書の基本構造について確認する。

1 財務・会計とは

1 はじめに

財務・会計の学習領域は、会計（アカウンティング）と財務（ファイナンス）に分かれる。ここでは、財務・会計の科目を攻略するために必要な前提知識としてこれら2つの内容の概要について説明する。

2 会計（アカウンティング）とは

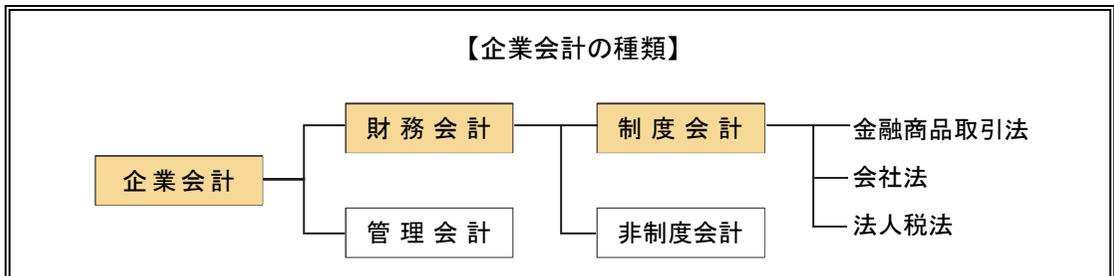
重要度 B

(1) 意義

会計には、家計や企業会計、国家の公会計などの種類があるが、中小企業診断士試験では、企業会計を指す。ここで、企業会計とは、企業の経済活動を記録、測定し伝達する手続きをいう。

(2) 種類

企業会計は、その伝達する相手により「財務会計」と「管理会計」に分類される。



3 財務会計

重要度 B

(1) 意義

財務会計とは、企業外部の利害関係者に対し、企業の経営成績と財政状態及びキャッシュ・フローの状況を報告することを目的とする会計をいう。

財務会計では、外部利害関係者に対して報告するため、複式簿記により記帳され、一定のルール（会計基準など）に基づき、会計処理が行われる。

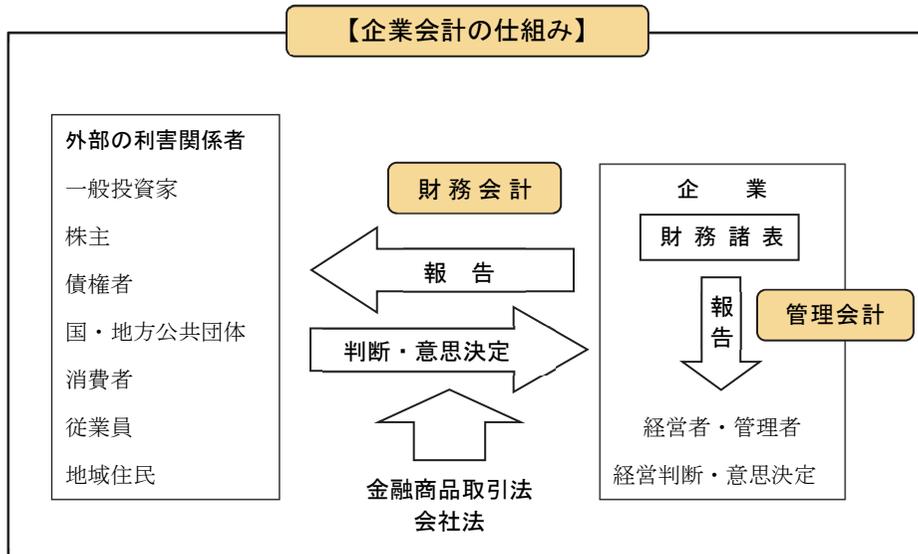
(2) 報告手段

報告手段は主として、損益計算書、貸借対照表及び株主資本等変動計算書等である。

4 管理会計

重要度 B

管理会計とは、企業内部の経営者等に対して、経営管理に役立つ会計情報を提供することを目的とする会計をいう。管理会計では、内部利害関係者に対して報告するため、一定のルールなどに縛られることなく、企業の都合により行われる点に特徴がある。



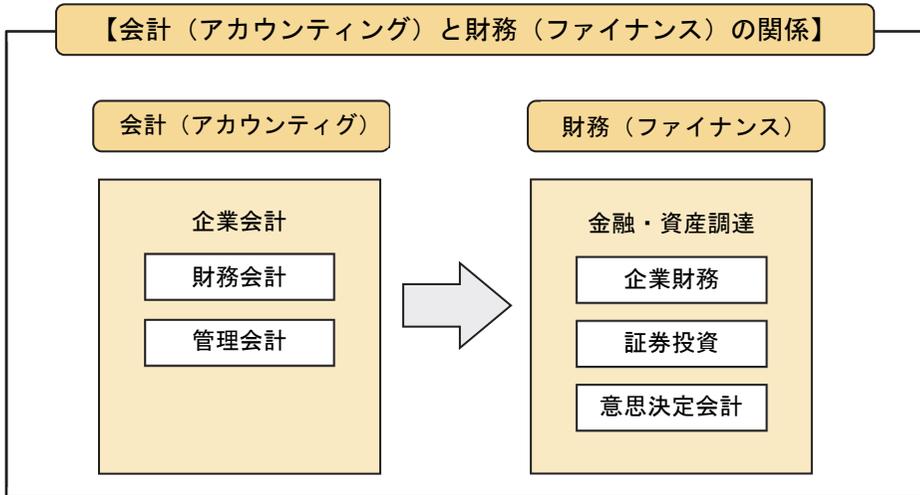
5 財務（ファイナンス）とは

重要度 B

(1) 意義

財務（ファイナンス）には下記のように3つの意味があり、中小企業診断士試験では主に3つ目の意味となる。

3つの意味	内容
①「資金」や「財源」という意味	事業などを行うために必要なお金のことを「ファイナンス」といい、「必要なファイナンスを確保する」という場合はこの意味となる。
②「財政」や「財務」という意味	事業活動などのためのお金を管理することも「ファイナンス」という。
③「金融」や「資金調達」という意味	「お金を供給すること」と「調達すること」のどちらも「ファイナンス」であり、「ファイナンスを行う」という場合はこの意味となる。



6 財務諸表の概要（アカウンティング）

重要度 A

企業会計のうち「財務会計」では、企業の財政状態や経営成績を報告する報告書を作成することを目的とし、そのための記帳技術として、複式簿記を用いている。複式簿記は、①資産、②負債、③純資産、④収益、⑤費用の5つの勘定を使い、それらを借方と貸方に振り分けることで会計帳簿に記録していく技術であり、最終的にその会計帳簿から貸借対照表や損益計算書という財務諸表を作成することができる。また、企業におけるキャッシュの流れを報告するキャッシュ・フロー計算書についても作成される。

(1) 貸借対照表の概要

貸借対照表は、企業の財政状態を明らかにするために、一定時点（決算日）における全ての資産、負債及び純資産を記載して、株主、債権者その他の利害関係者に示すために作成された報告書である。この貸借対照表は主要財務諸表の1つであり、Balance Sheet (B/S) と呼ばれる。

【貸借対照表の構成要素】

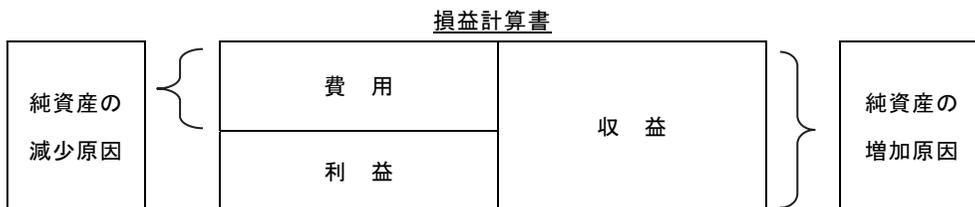


貸借対照表は、①資産（財貨や権利等）、②負債（借金等）、③純資産（元手や利益等）の3つの要素を使うことで「一定時点（通常は事業年度末）における財政状態（ストック）」を明らかにすることができる財務諸表である。

(2) 損益計算書の概要

損益計算書は、企業の経営成績を明らかにするために作成される財務諸表である。一会計期間に属する全ての収益とこれに対応する全ての費用とを記載し、当期純利益（損失）を表示する。この損益計算書は、Profit and Loss Statement (P/L) と呼ばれる。

【損益計算書の構成要素】



損益計算書は、①収益（売上や手数料等）、②費用（原価や経費等）の2つの要素を使い、両者の差額として利益を計算することで、一会計期間の経営成績を報告することのできる財務諸表である。

(3) キャッシュ・フロー計算書の概要

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間におけるキャッシュ・フローの状況を報告するために作成するものである。すなわち企業の資金獲得能力（どのように資金を産み出しているか、またどのように資金を利用しているのか）に関する情報を利害関係者に提供することを目的としている。

キャッシュ・フロー計算書では、次のように企業活動の態様に基づいた区分表示を行う。

<u>キャッシュ・フロー計算書</u>		
自×年×月×日 至×年×月×日		
I	営業活動によるキャッシュ・フロー	××
II	投資活動によるキャッシュ・フロー	××
III	財務活動によるキャッシュ・フロー	××
IV	現金及び現金同等物に係る換算差額	××
V	現金及び現金同等物の増加額	××
VI	現金及び現金同等物の期首残高	××
VII	現金及び現金同等物の期末残高	××